

# 第Ⅳ編

## 医学部教育

# 第Ⅳ編

# 医学部教育

## 第1章

## 医 学 科

震災後の学生教育に関しては、教務学生委員会で協議の結果、国家試験をひかえた6年次の試験を早急に行うとともに（資料1）、各学生の授業を資料の如く再開した（資料2）。また全学共通授業科目については、神戸大学大学教育研究センターの指示を受けた（資料3）。

授業の再開にあたっては、神戸学院女子短期大学・女子寮を学生の宿舎として提供頂き（資料4）、5名の学生がお世話になった。

また2年次の授業開始にあたっては、震災で死亡した

（資料1）

平成6年度3学期再試験日程（6年次）変更分

月日(曜)	時 間	科 目	筆答・口頭の別
1月30日(月)	13:30~15:30	外科学第二(B)	筆 答
1月30日(月)	16:00~17:00	内科学第二(B)	口 頭
1月31日(火)	13:10~15:10	泌尿器科学(B)	口 頭
1月31日(火)	15:30~17:30	内科学第一(B)	筆 答
2月1日(水)	13:00~14:00	産科婦人科学(B)	口 頭
2月1日(水)	14:30~15:30	耳鼻咽喉科学(B)	筆 答
2月1日(水)	16:00~18:00	放射線医学(B)	筆 答

（資料2）

平成6年度 2年次後期（震災後）授業日程 H7. 2. 6~2. 18

月日	曜日	年次	1時限目	2時限目 10:00~11:00	3時限目 11:10~12:10	4時限目 13:10~14:10	5時限目 14:20~15:20	6時限目 15:30~16:30
2月6日	月							
2月7日	火							
2月8日	水							
2月9日	木							
2月10日	金							
2月13日	月	2		細胞生物学 I	細胞生物学 I	細胞生物学 I	CNS 講義	CNS 実習
2月14日	火	2		発 生 学	神経科学 I	神経科学 I	CNS 講義	CNS 実習
2月15日	水	2		CNS 講義	CNS 講義	CNS 講義	医学英語	医学英語
2月16日	木	2		神経科学 I	神経科学 I	神経科学 I	CNS 講義	CNS 実習
2月17日	金	2		生 化 学	生 化 学	生 化 学	CNS 講義	CNS 実習

稲井健太郎君、橋本健吾君を偲んで黙祷した。また医学部実験室も学生の宿舎として開放し、数名の学生が実験室内へ宿泊し授業を受けた。

震災の犠牲者に対する合同慰霊祭は、平成7年3月17日に神戸大学六甲台講堂で行われた(資料5、6)。

震災後の卒業証書授与式は、平成7年3月24日に楠公会館で行われた。

一方神戸大学の入学試験は、試験会場を神戸大学に加えて大阪大学、岡山大学の3会場で実施し、前期試験が平成7年2月26日、後期試験は平成7年3月31日に行われた(資料7)。

## 震災後変更分

### 平成6年度3学期再試験日程(3年次)

月日(曜)	時 間	科 目
3月14日(火)	15:00~17:00	生理学第一(筆答)
3月15日(水)	15:00~17:00	生理学第一(筆答)
3月17日(金)	15:00~17:00	生化学第二(筆答)
3月20日(月)	15:00~17:00	解剖学第二(筆答)
3月22日(水)	15:00~17:00	生理学第二(筆答)
3月23日(木)	15:00~17:00	微生物学(筆答)
3月24日(金)	13:00~17:00	解剖学第一(筆答)

### 平成6年度3学期再試験日程(4年次)

月日(曜)	時 間	科 目
3月14日(火)	11:20~12:00	衛生学(筆答)
3月16日(木)	15:00~17:00	法医学(筆答)
3月20日(月)	15:00~16:00	薬理学(筆答)
3月23日(木)	15:00~16:00	公衆衛生学(筆答)

(資料3)

平成7年1月30日

殿

神戸大学大学教育研究センター長

多淵敏樹

平成7年1月30日以降の全学共通授業科目の授業計画等について(通知)

このことについて、1月24日開催の全学共通授業科目実施委員会について、下記のとおり実施することになりましたので通知いたします。

つきましては、貴学部説明会において、各学生に別紙「平成6年度後期授業科目の評価について」を配付くださいますようお願いいたします。

なお卒業予定者のうち、全学共通授業科目の学業成績

報告を急ぐ必要のある学生がいましたら、2月10日(金)までに、該当学生の名簿及び該当授業科目を大学教育研究センター教務学生掛まで連絡くださいますようお願いいたします。

記

1. 全学共通授業科目の授業再開及び定期期末試験は実施しない。

2. 成績評価については、平常点で行う。

なお、平常点で評価が行えない場合はレポート試験を行う。レポート試験を行う授業科目の場合は、統一テーマで実施する。

統一テーマ 「授業内容に関わるテーマを各人で設定し論述する。」

レポート用紙(A4版・横書)1000字程度

統一テーマで実施出来ない授業科目については、個々のテーマで実施する。

3. レポート試験を実施する授業科目のレポート提出締切

(1)4年生(卒業予定者) 2月17日(金)

(2)1~3年生 2月28日(火)

4. 成績報告提出締切

(1)4年生(卒業予定者) 2月28日(火)

(2)1~3年生 3月17日(金)

(資料4-1)

神大医学第 号

平成7年2月1日

神戸森学園

理事長 殿

神戸大学医学部長

山鳥 崇

前略

この度の震災につきましては、いろいろご援助下さりましてありがとうございます。

さて、2月13日から本学部の授業再開につきまして、貴学女子短期大学部の五宮町女子寮を2月10日から3月31日までお貸し下さいますようお願い申し上げます。

なお、今のところ人数は未定でございますが、確定次第ご連絡申し上げます。

ご好意のほど、本学教職員一同深く感謝しております。

早々

神戸大学医学部女子学生に対する年度末試験期間中の宿泊所提供について

平成7年2月1日

神戸学院女子短期大学学長 山西 浩

神戸大学医学部教務学生委員長龍野教授より御依頼のありました、標記の件について、神戸学院女子短期大学は下記の条件によって、神戸大学医学部女子学生の、本学学生寮（正受寮）における宿泊を許可します。

記

- 1 宿泊者は神戸大学医学部女子学生に限ります。
- 2 期間は平成7年2月10日より3月21日まで、40日間。  
(4月1日より始まる本学学生の入寮のための準備に約10日を要するため)
- 3 入寮手続きについて、希望者は2月9日までに、学生証のコピー、本人の印鑑、身元保証人となる保護者の印鑑を持参の上、正受寮所定の用紙に必要事項を記入し、下記の寮費を添えて寮長に提出して下さい。なお遠隔地の学生については代理人でもよい。入室は2月10日からできます。また、現在ボランティア救援活動に参加中であつたり、交通事情の混乱などにより、2月10日に入室できない学生については、2月11日以降の入室も認めますが、入寮手続きは必ず2月9日までに完了して下さい。
- 4 寮費は16,000円(1日当り400円)、入寮時に一括納入のこと。  
なお、病気以外の理由による途中退寮は不可。  
外泊は、寮長の許可のもとに原則として週1回のみ可。
- 5 原則として1室4人。場合によっては1室2人も可、ただし個室としての使用は認めません。神戸学院女子短期大学生と相部屋になることもあります。
- 6 起床はAM6:50。夜の門限はPM9:00。寮長がPM9:15に点呼します。点呼の時にいない人は、規則違反として入寮許可を取り消します。
- 7 水は出ますが、ガスが不通のため、炊事と入浴は不可能です。
- 8 暖房はホームこたつ及び電気毛布は可。エアコン、電気ストーブ、電熱器の使用は不可。ドライヤーの使用も不可。
- 9 テレビは談話室においてのみ視聴可。各室へのテレ

ビの持込みは不可。

ラジオの音量も最低にすること。

- 10 酒及びタバコの持込みは禁止します。
- 11 万一、余震があつて寮生が重軽傷を負った場合には、神戸学院女子短期大学の学生を含めて、人命救助活動に自ら進んで参加すること。
- 12 上記の条件に違反した場合には、寮長が直ちに退去を命じます。



正受寮



医学部授業再開(2年次)



医学部学生の実験室内宿泊

(資料5)

神戸大学教職員・学生の皆さんへ

神戸大学合同慰霊祭の実施について

去る1月17日未明、兵庫県南部地方を襲った地震により、神戸大学においては教職員2名、学生39名にも及ぶかけがえのない多数の尊い命が奪われました。

突然の不幸で将来の夢を奪われた教職員・学生の無念さと、ご遺族の皆様方のご心情を拝察するとき、哀切の念に堪えないところであります。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、御霊をお慰め申し上げるとともに、本学の教育・研究の復興を期し、神戸大学合同慰霊祭を下記により執り行うことといたしました。

については、教職員・学生の皆さんにご列席いただきたくご案内いたします。

平成7年2月23日

神戸大学長 西塚 泰美

記

日時 平成7年3月17日(金) 午後2時から

場所 神戸大学六甲台講堂

(なお、六甲台講堂が満席になった場合は、周辺学部の講義室を用意し、モニターテレビを設置します。)

(資料6-1)

兵庫県南部地震神戸大学犠牲者名簿

教職員

部局名	氏名	年齢
理学部	朝倉 純子	46歳
医学部附属病院	中條 聖子	29歳

学部学生・大学院生・研究生

学部・研究科名	氏名	年齢
国際文化学部	WAI MOU LWIN	35歳
	KHIN THET SWE	36歳
発達科学部	上野 志乃	20歳

教育学部 法学部	川村 陽子	19歳
	磯部 純子	21歳
	廣瀬 由香	24歳
	桜井 英二	22歳
法学研究科 経済学部	森 涉	22歳
	加藤 貴光	21歳
	二宮 健太郎	21歳
	工藤 純	23歳
経済学部第二課程	高見 秀樹	21歳
	後藤 大輔	20歳
	林 宏典	21歳
	金山 朋子	44歳
経営学部	白木 健介	21歳
	藤原 信宏	22歳
	中村 公治	21歳
	戸梶 道夫	20歳
理学部	呉 婕	21歳
	齒朶原 孝	20歳
	篠塚 真	21歳
	梶 達雄	20歳
理学研究科	高橋 幹弥	20歳
	沈 一春	32歳
	稲井 健太郎	22歳
	橋本 健吾	19歳
工学部	清水 倫行	22歳
	神徳 史朗	22歳
	鈴木 伸弘	22歳
	坂本 竜一	22歳
農学部 農学研究科	長尾 信二	20歳
	傅 建鴻	27歳
	細井 里美	20歳
	曹 璇	50歳
自然科学研究科	榊 富浩二	24歳
	今 英人	23歳
	競 基弘	23歳
	母 志斌	28歳

## 次 第

一、開式の辞

一、黙禱

一、式辞

神 戸 大 学 長 西 塚 泰 美

一、追悼の辞

文 部 大 臣 与 謝 野 馨

兵 庫 県 知 事 貝 原 俊 民

神 戸 市 長 笹 山 幸 俊

神 戸 大 学 育 友 会 理 事 長 寶 官 洋 美

神 戸 大 学 学 生 代 表 神 谷 猛 士

一、弔電披露

一、遺族代表挨拶                    森      茂 隆

一、献花

一、閉式の辞



兵庫県南部地震神戸大学犠牲者合同慰霊祭  
(3月17日、六甲台講堂)

## 神戸大学をめざす受験生の皆さんへ

平成7年度神戸大学入学試験の試験会場、日程等の変更をお知らせします。

神戸大学では、平成7年度学部入学試験の試験会場、日程及び出願期日を次のように変更します。

**試験会場** 大阪大学、岡山大学、神戸大学の3会場を実施する。なお、受験者が希望する試験会場を選択できるように配慮する。

**試験日** 前期試験 平成7年2月26日(日)に変更する。ただし、発達科学部人間行動・表現学科の実技試験は2月27日(月)に神戸大学で実施する。後期試験 平成7年3月13日(月)に変更する。ただし、発達科学部人間行動・表現学科の実技試験は同日に神戸大学で実施する。

(注)実技試験受験者には専用バスを運航する。

**出願期日** 平成7年2月1日(消印有効)。

実技内容は募集要項に記載どおりで変更はない。ただし、実技美術受験コースについては、各々の試験時間を約2時間に短縮して行う。

試験会場・試験時間に関する説明文書は、願書提出者に対して、前記試験は2月10日に、後期試験は3月2日に発送する。既に願書を提出した者で、連絡場所に変更があった場合は願書提出学部連絡すること。

各学部の受付電話番号 (いずれもダイヤルインで、医学部及び医療技術短期大学部以外は078-8031)

文 学 部	0480 (FAX0486)
国 際 文 化 学 部	0730 (0829)
発 達 科 学 部	0868 (0870)
法 学 部 昼 間 主 コース	0258 (0244)
同 夜 間 主 コース	0259 (0244)
経 済 学 部 昼 間 主 コース	0312 (0319)
同 夜 間 主 コース	0313 (0319)
経 営 学 部 昼 間 主 コース	0373 (0364)
同 夜 間 主 コース	0374 (0364)
理 学 部	0495 (0722)
工 学 部	0718 (0719)
農 学 部	0615 (0995)
医 学 部 医 学 科	078-341-7451 内線2320 (341-4644)
医 学 部 保 健 学 科	078-792-2555 (793-2713)

## 神戸大学の皆さんへ

神戸大学では、1月29日まで全学の授業の全面休講の措置を取っていますが、授業再開に向けて1月30日以後学生に登校を呼びかけています。

さし当たり各学部・研究科ごとに説明会を開催し、学生の安否を再度確認するとともに、授業再開のスケジュール等を説明する予定ですが、説明会の日時について登校可能な学生は左記の番号まで問い合わせして下さい。登校に当たっては、くれぐれも無理がないようにして下さい。登校困難な学生は、登校可能な学生に連絡を取るようして下さい。各学部の受付電話番号 (いずれもダイヤルインで、医学部及び医療技術短期大学部以外は078-8031)

文学部・文学研究科	0480 (FAX0486)
国際文化学部	0826 (0829)
教育・発達科学部・教育学研究科	0867 (0870)
法学部昼間主コース・法学研究科	0258 (0244)
同 夜 間 主 コース	0259 (0244)
経済学部昼間主コース・経済学研究科	0311 (0319)
同 夜 間 主 コース	0313 (0319)
経営学部昼間主コース・経営学研究科	0373 (0364)
同 夜 間 主 コース	0374 (0364)
理学部・理学研究科	0493 (0722)
工学部・工学研究科	0715 (0719)
農学部・農学研究科	0615 (0995)
自然科学研究科	0135 (0168)
国際協力研究科	0311 (0319)
医学部医学科・医学研究科	078-341-7451 内線2321 (341-4644)
医療技術短期大学部	078-792-2555 (793-2713)

平成7年1月25日 神戸大学



神戸大学個別学力検査（後期日程）第1試験場

（神戸大学）



神戸大学個別学力検査（後期日程）第3試験場

（大阪大学）



神戸大学医学部学科卒業証書授与式

（3月24日、楠公会館）



神戸大学個別学力検査（後期日程）第7試験場

（岡山大学）



## 第2章

# 保健学科

大震災により保健学科（医療技術短期大学部）における教育・学生生活への影響も深刻であった。地震発生後2週間経過した1月30日、登校可能な学生のみを対象に、修学指導に関する説明会が行われた。この時、学生の安否と今後の修学指導の参考とするため学生を対象に被災状況調査が同時に実施された（表1）。

表1 学生生活への影響について

(被災状況調査より、N=254)	
震災前の住居について	自宅：218 (86.6%) 自宅外：136 (53.4%)
震災前の住居の被災状況	全壊（焼）：11 (4.3%) 一部損壊（焼失）：65 (25.6%) 被災なし：278 (108.1%)
現在の住居について	震災前と同じ：254 (100%) 震災前と異なる：100 (39.4%)
負傷状況等について	軽傷：5 (1.9%) 無傷：349 (136.6%) 重傷：0
今後の通学見込について	現状において通学可能：218 (86.6%) 交通機関が復旧すれば可能：174 (68.5%) 交通機関が復旧しても困難：12 (4.7%)
学生寮への入寮希望について	希望する：16 (6.3%) 希望しない：338 (132.7%)

### 1. 教育・学生生活への影響

#### (1) 授業

地震による学舎への影響は、幸いにも少なかったが、各通学交通機関の駅舎倒壊並びに線路の崩壊による交通網の寸断、不通、また少数ではあるが、下宿の倒壊により居住できない者がおり、2度にわたる授業再開への対応を審議する教授会を開催し、交

通機関の回復を願ったが、あまりにも大災害であり、やむなく後期の授業のすべてを休講とし、補講を4月以降行う処置をとった（表2）。

#### (2) 定期試験

試験期間を当初の予定より2週間繰り下げるとともに、通学の困難な学生に対し、開始時間を2時間繰下げ、1日の試験科目数の縮小、試験時間の短縮などの配慮を行った（表2）。

また、通学の不可能な学生に対しては、試験期間中、実習室、保健室並びに自習室を、宿泊施設、学習室として開放し、延べ約12名が利用した（表3）。

#### (3) スキー講習会

今年度が医療短大として最後のスキー講習会であったが、参加学生の被災、余震による2次災害の恐れ、引率教官の被災、道路網の寸断による交通渋滞、講習会での事故が起きた場合十分な対応ができない等の理由から、やむなく中止せざるをえなかった。

#### (4) 入学試験

震災直後の願書受付、新設学科の知名度等の理由から、出願者数への影響が心配であったが、当初の予想以上の出願（表4）があった。

前、後期の両日程ともに、試験日を1日繰下げ、会場を神戸大学、大阪大学、岡山大学の3会場で実施し、受験生の便宜をはかるとともに、また被災受験生のための特例入試を実施した。

本学科で始めて実施した、大学入試センター試験を無事終了後での震災であったことは、非常に幸運としか言いようのないことであった。

#### (5) 卒業式

平成5年度から神戸大学と合同で行ってきた卒業式が会場の被災で急きょ神戸大学六甲台講堂に変更せざるをえず、収容人数の関係から講堂外の学舎にも参列卒業生を収容しビデオで講堂内の式典を見ながらの異例の分散卒業式となった。

表2 平成7年兵庫県南部地震による教務学生関係行事日程について

1) 1月30日以降の休講措置について

学舎等の被害は比較的少なく、授業のできる態勢にあるが、通学交通機関の不通により、教官、学生の通学が不可能と思われる。

よって、当分の間休講とし、学生には大学から連絡があるまで自宅待機とする。

2月8日(水)まで休講とし、当日の教授会で次の判断をする。

(対策) 開講時の連絡網の整備が必要

1月30日(月)午後1時～午後2時30分 学科オリエンテーション

(通学可能者のみ)

2) 休講に伴う補講について。

3月31日までは行わない。

ただし、成績と無関係に補講を希望する教官は教務学生掛へ連絡すること。

教務学生委員会でスケジュールを定める。

3) 定期試験の取扱いについて

予定では2月6日から実施することになっているが、通学交通機関の不通により実施でないと思われる。

(試験形態)

3年生(卒業予定者)について

衛生技術学科は1月23日～1月27日に予定されていたが、30日に変更曜日を発表する。なお、試験が不可能な場合レポートとする。

看護、理学療法、作業療法学科は平常点とする。

成績の報告は2月28日(水)までに報告する。

1年生、2年生について

定期試験で筆記試験を予定している科目については、実施日を変更して行う。

1. 試験期間 2月27日(月)～3月9日(木)

午前11時～午後3時10分までの3時限とする。(各試験時間は1時間)

2. 試験問題の作成は各担当教官が行う。(非常勤講師のみ教務学生掛で行う。)

3. 授業中に試験を行う予定であった教官で、試験期間に試験を実施する教官は教務学生掛へ1月27日(金)午前中までに連絡すること。

4. 成績(レポート等採点含む)は再試験を行った結果を3月24日(金)までに提出する。

5. 試験に登校できなかった学生は、レポートで行う。

4) 卒業判定について

3月7日(水)の教授会において行う。

5) 臨床実習履修資格判定について

3月29日(水)教務学生委員会にて判定を行う。

4月上旬の教授会において決定

6) 前期授業時間割の編成について

1月25日(水)に行う。



## 第V編

# 法医学分野の活動

## 第V編

# 法医学分野の活動

法医学講座では教授、助教授ともに兵庫県から非常勤監察医に委嘱されており、今回の阪神・淡路大震災では、非常勤講師である常勤監察医とともに、兵庫県監察医として震災死亡者の死体検案活動を行った。

### 1. 死体検案活動の概要

#### (1) 1月17日(火)

平成7年1月17日午前8時30分、兵庫県警察本部から兵庫県監察医に対し、監察医業務区域（西区と北区を除く神戸市内）及び西宮市内の一部の地域における災害死体に関する死体検案の要請があった。相当数の死体検案となることが容易に予測されたため、円滑、迅速な死体検案並びに身元確認が行えるように、各警察署毎に数カ所の遺体安置所を定め、安置所毎に遺体に番号を付し、警察による行政検視を準備した状態で監察医による死体検案を待つように指示した。同時に全監察医に非常召集を掛けたが、監察医自身が被災者であったこと、並びに、公共交通機関の破壊並びに交通渋滞のため、午後2時に4人が集まり、死体検案業務を開始した。

兵庫県監察医業務区域の所轄警察署は、西から垂水、須磨、長田、兵庫、生田、葺合、灘、東灘及びポートアイランドと六甲アイランドを受け持つ神戸水上の9署であるが、灘、長田、須磨各警察署管内の遺体は、既に100体を越えていたが、葺合、生田、兵庫警察署管内の遺体は、いずれも50体未満であったため、先ず、監察医務室に近く、且つ発生数の少ない警察署から死体検案を始め、順により遠方の警察署へ赴く予定で担当医を決めた。

遺体安置場所は学校、体育館、保健所、お寺をはじめ、区民センター、灘生協など神戸市内で40カ所にのぼり、灘区の王子スポーツセンターでは300体以上が安置されていた。何れの安置場所も初期の頃は停電しており、投光器や懐中電灯を用いて検案を

行わなければならない状態であった。

#### (2) 1月18日(水)

午前中に1名、午後には2名の監察医が到着し、大阪府監察医2名が検案に加わった。ようやくこの時点で監察医の死体検案体制は概ね整ったが、遺族に交付する死体検案書の作成及び遺族との対応の問題が生じてきた。ここまでは神戸大学文部技官1名及び事務員1名によって死亡届用死体検案書の作成を行っていたが、既に1,000近くになった検案書の作成に追いつかず、更にその後も検案数の増加が容易に予測できたため、合議の末、各大学の職員あるいは学生のボランティアの応援を可能な限り募ることとした。結果、兵庫県保健環境部医務課職員2名、三重大学助手1名、神戸大学及び医療系短大の学生3名でこれに対応した。

各検案担当医間及び日本法医学会との連絡は、電話回線の混雑のため困難であった。

#### (3) 1月19日(木)

日本法医学会理事長から医師派遣の申し入れがあり、以後1月29日(日)まで以下のように各警察署別の医師配置体制が整った。また、文部省の配慮により大学教官である応援派遣医師はすべて派遣期間中、出張の扱いとなった。



1月18日 兵庫署道場

検案医師勤務体制（警察署別）

平成7年1月	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日
西宮署	1	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
東灘署		4	5	5	4	3	2	2	1	1	1	1	1
灘署		3	3	5	4	3	2	1	2	1	1	1	1
葺合署	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生田署	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
兵庫署	2	2	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1
長田署	1	1	1	3	3	2	2	3	3	1	1	1	1
須磨署		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
垂水署					1	1	1						
神戸水上署	1												
地震以外の 検案・解剖				1	2	3	2	3	2	3	2	2	2
事務所待機				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

死体検案数推移

	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	計
監察医務区域	143	786	810	371	179	39	28	6	10	9	2	6	2	2	9	2,402
西宮市内	71	37	3													
計	214	823	813	371	179	39	28	6	10	9	2	6	2	2	9	2,513

2. 今回の震災時死体検案活動に関する問題点

(1) 通信連絡網、交通手段及びライフラインの破壊

災害発生と同時、即ち、最も緊急連絡を必要とした時期に電話の使用が困難となり、且つ交通手段が遮断されたことは、死体検案業務にも多大な影響を与えた。県庁、警察への連絡はもとより、監察医間の連絡さえ困難であった。また、ライフラインの破壊によって、検案側の水、食事など生活基盤の確保も課題となった。

(2) 人員の確保

上記1)に伴い死体検案をする医師のみならず、検案補助、事務所における死亡届用死体検案書の発行及び遺族との対応をする要員の召集・確保が困難であった。震災死体が極めて多く、更に、震災以外

の死体検案業務も加わり多忙を極めた。その上、一度に多数の遺族が書類の受け取りに訪れたことも混乱を拡大した。

後に、各検案場所で死体検案書を発行する方式に変更したが、当初の膨大な検案数があった時期には、現場での発行は極めて困難であった。

(3) 一般臨床医の死体検案への参加について

一度に極めて多くの災害死体が発生したため遺体の安置場所が各地に散在したこと、電話回線の飽和及び交通手段の遮断による監察医の召集が困難であったこと、更に遺族からの早急な遺体の引き渡しの要望があったことなどから、各警察署では、一般臨床医に対し死体検案の要請をしていた。本来、神戸市内では監察医が災害死体の検案に携わるべきであ

るが、その状況を許諾せざるを得なかった。神戸市内以外についての詳細は把握していないが、神戸市内で臨床医が検案したものについては、病院へ救急搬送され、死亡確認した医師が検案したものが多く見られた。また、遺体安置場所では各警察署からの依頼を受けた明石市あるいは三木市等の医師会から派遣された臨床医が、死体検案を行っており、およそ70名の臨床医が、死体検案に携わっている。監察医業務区域である神戸市でもこの状態であるから、神戸市以外の地域では病院、診療所での治療及び死体検案、並びに遺体安置所での死体検案と臨床医の負担は相当大きなものであったと考えられる。

#### (4) 監察医制度及び日本法医学会の果たした役割

今回の災害に際し、監察医は、神戸市内において発生した災害死体のすべてを検案すべきであったが、上記の理由で達成されなかったことは残念である。しかし、日本法医学会の協力により検案体制が確立された後は、身元不明死体や死因不明死体の解剖を行うことができるようになり、更に災害死以外の検案業務も円滑に行えるようになった。

日本法医学会の支援により、監察医、兵庫県警察本部及び法医学会理事長との間で、合同会議が開催され、以降、検案医師の配置、検案書作成及び発行方法の統一ができた。支援はあくまで兵庫県監察医を主体としたものであり、後の検案活動・事務処理を支障なく行えた。

検案活動の基盤に監察医制度があり、それを支える法医学講座並びに日本法医学会からの応援派遣、さらに大学教官の派遣を支援した文部省の英断があったため、このような大災害時においても可及的迅速に検案体制を確立でき、法医学の専門家がほとんどの検案に携わることができたことは評価されるべきである。

### 3. 検案結果

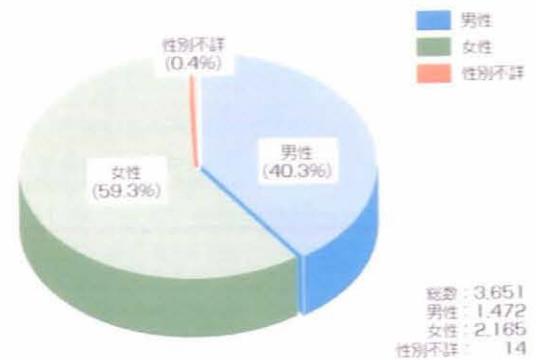
監察医及び日本法医学会派遣医師は監察医業務区域（西区及び北区を除く神戸市内）で約2,400体の死体検案を行った。これらと兵庫県警の依頼で検案を行った臨床医が発行した約1,200、計3,651の死体検案書記載事項をもとに年齢、性別、死亡場所、死亡推定時刻及び死因等を検討した。

(1) 兵庫県南部地震災害死者数（監察医業務区域内）  
調査総数、性別分布及び年少、生産年齢、老年に分けた分布は以下の通りであった。

総数	3,651
男性	1,472
女性	2,165
性別不詳	14

#### 年齢別分布

	男性	女性	不詳	計
0～14歳	102	116	0	218
15～64歳	800	977	0	1,777
65歳以上	547	1,058	0	1,605
年齢不詳	23	14	14	51
計	1,472	2,165	14	3,651



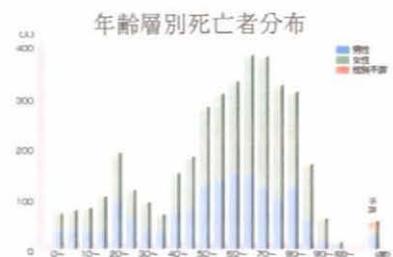
兵庫県南部地震災害死者数・性別分布  
(兵庫県監察医業務区域内)

男性が約40%、女性が約60%、女性が男性の約1.5倍となっている。

地震の発生が午前5時46分頃という早朝であったため、自宅で就寝中に被災した例が多く、身元不明死体の発生率は1%以下であった。

#### (2) 年齢層別死亡者数（監察医業務区域）

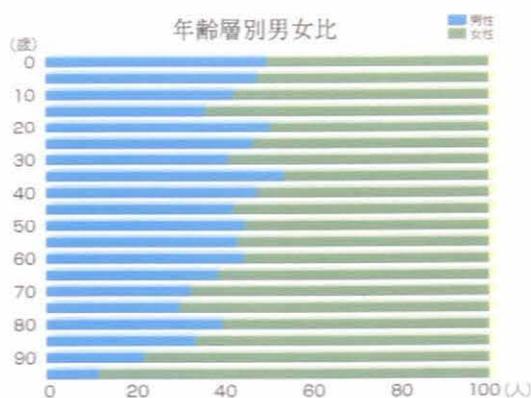
5歳毎の年齢層別の分布は以下の通りであった。



20～24歳及び65～74歳にピークが認められる2峰性の分布を示している。

年 齢	0-	5-	10-	15-	20-	25-	30-	35-	40-	45-	50-	55-	60-	65-	70-	75-	80-	85-	90-	95-	100-	不祥	合 計
男 性	34	35	33	36	94	53	37	35	68	75	124	131	147	145	121	94	120	53	12	1	1	23	1,472
女 性	33	38	45	64	90	60	53	30	75	102	152	172	179	232	255	225	186	108	44	8	0	14	2,165
性別不祥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14
計	67	73	78	100	184	113	90	65	143	177	276	303	326	377	376	319	306	161	56	9	1	51	3,651

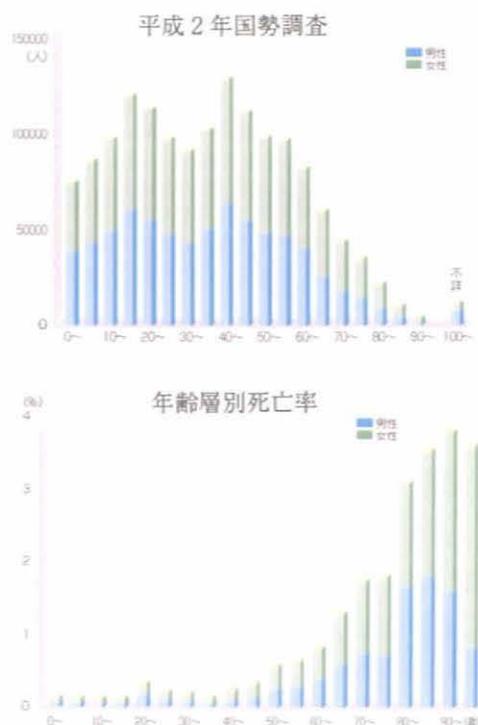
(3) 年齢層別男女比（監察医業務区域）



0～4歳、20～24歳及び34～39歳以外の全てで女性の比率が高くなっている。

(4) 年齢層別死亡率（監察医業務区域）

以下に示した平成2年国勢調査による神戸市における年齢層別人口構成をもとに年齢層毎の死亡率（%）を算出した。



65歳以上の高齢者の死亡率が若年者に比して高く、年齢と共に増加し、特に80歳以上では極めて高くなっている。また、死亡率においても、20～24歳及び34～39歳以外の全てで女性が高くなっている。

(5) 地区別年齢層別分布

各地区別に年齢層別の分布を調査した。



東灘区、灘区では他の地区に比べて20～24歳の死亡者が著明に多くっており、灘区では男性が特に多くなっている。

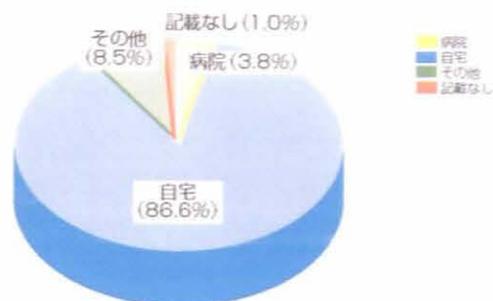
(6) 死亡場所

死体検案書の死亡したところの種別に基づいて集計を行った。

死亡したところの種別

病 院	139
自 宅	3,163
そ の 他 (診療所4,老人ホーム1を含む)	314
記 載 な し	35
合 計	3,651

自宅死亡が86.6%、病院死亡が3.8%であった。



(7) 死因分布 (監察医業務区域)

死体検案書の死因の欄の記載内容をそのまま集計したところ、以下の表の結果を得た。

窒息	1,967	53.9%
胸部圧迫	857	
胸腹部圧迫	435	
体幹部圧迫	108	
頭頸部・顔面・ 気道圧迫または閉塞	324	
原死因の記載なし	211	
その他	32	
圧 死 (胸部・頭部・全身の圧挫損傷)	452	12.4%
外傷性ショック (火傷・打撲・挫滅・出血等による)	82	2.2%
頭部損傷 (外傷性くも膜下出血・頭蓋骨折・脳挫傷等)	124	3.4%
内臓損傷 (胸部または胸腹部)	55	1.5%
頸部損傷	63	1.7%
焼死・全身火傷 (一酸化炭素中毒を含む)	444	12.2%
臓器不全等	15	0.4%
衰弱・凍死	7	0.2%
打撲・挫滅傷	300	8.2%
不祥及び不明 (高度焼損死体を含む)	116	3.2%
その他	26	0.7%
合 計	5,618	

圧死の殆どは、何らかの圧迫による窒息及び内臓損傷と考えられ、打撲・挫滅傷では、全身打撲との記載が多く、圧死と同様と考えられる。また、焼死・全身火傷には一酸化炭素中毒も数例含まれているが、ほとんどが骨片になった高度の焼損死体であり、本来なら不祥・不明に含まれるものと言える。臓器不全の中には腎不全が含まれており、いわゆる挫滅症候群の例であったと推定される。

## (8) 区別死因分布

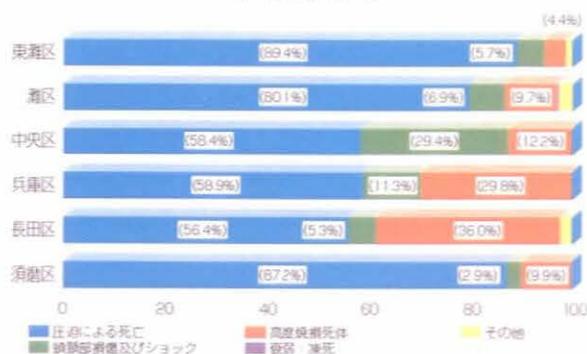
各区別に死因を集計した。

	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	長田区	須磨区	計
窒息	670	585	83	209	201	219	1,967
圧死	132	70	18	3	176	53	452
頭部損傷	33	25	22	21	21	2	124
頸部損傷	4	9	30	11	9	0	63
臓器損傷	18	15	12	7	2	1	55
外傷性ショック	27	24	6	10	8	7	82
全身打撲	262	0	2	0	29	0	293
焼死	15	77	15	77	248	12	444
不祥・不明	38	4	9	34	12	19	116
衰弱・凍死	0	6	0	0	1	0	7
その他	11	21	0	0	16	0	48
	1,210	836	197	372	723	313	3,651

比較的ゆっくりした外力が加わったと考えられる圧迫による死亡、比較的速い外力が加わったと考えられる頭部損傷及び外傷性ショック、高度焼損死体（焼死か死後の焼損か不明の死体）、衰弱及び凍死（外力による損傷は致命的ではなかったが逃げ出せずに食物及び水分の不足、あるいは寒冷環境暴露によって死亡）、その他にまとめて集計した。

	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	長田区	須磨区	計
圧迫による死亡	1,082	670	115	219	408	273	2,767
頭部損傷及びショック	64	58	58	42	38	9	269
高度焼損死体	53	81	24	111	260	31	560
衰弱・凍死	0	6	0	0	1	0	7
その他	11	21	0	0	16	0	48
	1,210	836	197	372	723	313	3,651

## 地区別死因分布



中央区では頭部損傷及び外傷性ショックの割合が多く、兵庫区及び長田区では高度焼損死体の割合が高くなっており、圧迫による死亡が他に比べて少

なくなっている。

## (9) 死亡推定時刻（監察医業務区域）

臨床医検案分の死亡時刻の欄には、死亡推定時刻ではなく死亡確認時刻を記載したと推定されるものが多数認められ、また、死亡確認時刻を記載したとの担当医の証言も得られたため、臨床医の作成した死体検案書は死亡推定時刻の全体的な把握には適さないと考えられた。従って、監察医及び日本法医学会派遣医師によって検案されたものについてのみ集計を行った。

### 死亡推定時刻（監察医検案分）

死亡日時	死亡者数	死亡者数累計
1/17~6:00	2,221	2,221(91.9%)
~9:00	16	2,237(92.6%)
~12:00	47	2,284(94.5%)
~23:59	12	2,296(95.0%)
時刻不祥	110	2,406(99.6%)
1/18	5	2,411(99.8%)
1/20	2	2,413(99.9%)
1/21	1	2,414(99.9%)
1/22	1	2,415(100.0%)
1/25	1	2,416(100.0%)
計	2,416	

### 死亡推定時刻（監察医検案分・不祥データ削除後）

死亡日時	死亡者数	死亡者数累計
1/17~6:00	2,221	2,221(96.3%)
~9:00	16	2,237(97.0%)
~12:00	47	2,284(99.0%)
~23:59	12	2,296(99.6%)
1/18	5	2,301(99.8%)
1/20	2	2,303(99.9%)
1/21	1	2,304(99.9%)
1/22	1	2,305(100.0%)
1/25	1	2,306(100.0%)
計	2,306	

以上から93.6%が1月17日午前6時まで、17日中には99.6%が死亡したと推定される。

## 4. 避難生活が及ぼした影響について

震災後、避難生活が何らかの影響を及ぼしたと考えられる死因不明の異常死体数は、3月末までに49例であった。1月：29例、2月：17例、3月：3例と減少し、以後は発生していない。医療ボランティアの活躍や仮設診療所処置等の効果によって減少したものと考えられる。年齢分布では65歳以上の高齢者が37例と75.5%を占め、生命力の劣る高齢者に大きな影響を及ぼしたと考えられる。死因別では循環器系疾患が多く、通院していた医療機関が被災したため、あるいは自ら

が被災したため通院できなくなり、基礎疾患がコントロールされなくなって発症したものと思われる。また、気管支肺炎及び大葉性肺炎も多く認められ、被災による環境の悪化が影響を及ぼしたものと思われる。

震災関連病死者死因分布

循環器系疾患	30
虚血性心疾患	8
冠状動脈硬化症	3
急性心筋梗塞	8
高血圧性心疾患	4
急性心筋炎	1
解離性大動脈瘤	3
胸部大動脈瘤破裂	1
肺塞栓症	1
青壮年急死症候群	1
呼吸器系疾患	16
気管支喘息大発作	1
気管支肺炎	7
大葉性肺炎	8
消化器系疾患	1
出血性胃潰瘍	1
泌尿器系疾患	2
多嚢胞腎	2

震災関連病死数

	1月	2月	3月	合計
死因不明病死数	112	58	49	219
震災関連病死数	29	17	3	49
震災関連/死因不明	(25.9%)	(29.3%)	(6.1%)	(22.4%)

震災関連病死者年齢分布

年 齢	検 案 数
0歳～14歳	0 0.0%
15歳～64歳	12 24.5%
65歳～	37 75.5%
合計	49

## 5. 本災害の特徴

- (1) 広範囲で大規模な天災であった。
- (2) 初期に活動すべき監察医自身が被災者であった。
- (3) 交通通信網の遮断が業務を妨げた。

- (4) ライフラインそのものの破壊があった。

以上の如く、これまでに発生した航空機、列車事故、火災災害などの大量の死亡者を出した災害とはまったく異なる災害であった。

## 6. 結 び

兵庫県監察医並びに神戸大学医学部法医学講座はこれまでに、昭和38年神戸港ときわ丸海難事故、昭和43年有馬温泉池の坊満月城火災、昭和61年神戸市北区精神薄弱者施設陽気寮火災、平成2年長崎屋火災の如く、一度に多数の死者を出した災害の死体検案を経験しているが、今回の阪神・淡路大震災は、その規模においても、死亡者数においても、未曾有の災害であった。

今回の死体検案活動によって、神戸市内の死亡者の約95%の集計が行い得た。従来、地震災害においては、建造物の被害調査が主体であり、これだけ大量の人的被害の実態が把握された例はなく、既に完了している日本建築学会による建造物被害調査の結果と比較検討することによって、従来は行い得なかった震災時における人的被害の推計、耐震設計の新基準、さらに都市計画への活用が可能であると考えられる。当教室においては既に建築学あるいは地震学関係研究者との共同研究を開始しているが、今後さらに広く他分野の研究者との共同研究を行い、その結果を今後の災害対策に活用することが本災害によって亡くなった人々へのせめてもの供養であると信じる。

本災害の如く広範囲で大規模な災害においては、災害発生からの時間経過に伴って、災害救急医療、被災地での内科的医療さらに精神的ケアと医療関係者の活動は、広範囲及び長期間に渡って必要となるが、死体検案活動は救急医療と共に、災害発生直後から開始する必要があり、また、死亡者個々の死因を正確に調査することは、医学のみならず、その後の災害対策全般にとって極めて重要である。従って、災害対策の一環として死体検案活動の基盤となる検死制度の充実が強く望まれる。

## 第Ⅵ編

# 被害状況とその対応

## 第1章

### 建 物

#### 1. 建物関係の被災状況

##### (1) 病院地区

##### ① 病棟 SRC造10-1 20,046㎡ 昭和42年

###### ——躯体関係——

###### ・ 構造耐力上主要な部分

- 柱 1階及び地下階の一部に、ひび割れの発生が顕著であり、被害が大きい。この部分については耐力維持のため、樹脂注入による処置をした。その他6階より下階に、ひび割れの発生が多い。
- 梁 6階より下階に、ひび割れ発生が多い。
- 耐力壁 2階から9階の全ての鉄骨ブレースが振動し、被覆コンクリートが破壊、一部ブレースの変形があるが、耐力に影響するものではない。

床版 一部にひび割れが発生。

- ・ その他雑壁等 外壁のほぼ全てに、ひび割れの発生があり、特に6階より下階に、顕著である。このうちの病室については内側に無収縮モルタルを充填し、応急処置をした。
- ・ 内壁、間仕切り壁等 コンクリートブロック壁を含み全ての階で大小のひび割れが発生している。特に下階にいたるほど顕著で一部は破壊した。

###### ——内装、その他雑——

内装仕上げ材等は壁等の損傷に伴うモルタル、タイル、塗装、壁紙、床材、天井材等と上記ブレースの振動に伴う木製下地壁の膨れあがり、それ

に伴う壁面固定の床頭棚ほか各種固定棚の剥がれ、ぐらつきがある。一部の危険箇所には、受け金物にて応急処置をした。

建具は防火扉1ヵ所を含み鋼製、アルミ、木製共数ヵ所で損壊、変形等の被害をうけた。

###### ——エキスパンション・ジョイント部——

(病棟-講堂)

臨床講堂とのEXP・Jのジョイント金物の爆裂、ジョイント列沿いの床、壁、天井等仕上げ材の損壊、屋根防水ジョイント部の離脱等、多くの被害をうけた。

(病棟-中央診療棟)

10階看護婦詰所のWGを含む外壁及び窓サッシが大きく破壊し、中央診療棟側廊下部の屋根防水層の損傷、同床梁の損壊、1階から9階の内外のジョイント金物の爆裂、及び壁、天井の損傷、6階から9階の窓サッシの破壊、変形の被害をうけた。

###### ——建物外部——

ドライエリア擁壁に多数のひび割れが生じ、一部に損壊状態の箇所がある。

建物周囲の各所で地盤が沈下し、取り付け舗道、同上屋、埋設管類に被害をうけた。

##### ② 中央診療棟 SRC造5-1 (一部9-1)

17,995㎡ 昭和58年

外来診療棟 SRC造6-1 25,177㎡

昭和61年

###### ——躯体関係——

躯体については外壁、内壁の各所にひび割れの

発生がみられるが、構造耐力に影響するものは無い。

——内装、その他雑——

内外装その他、雑関係では、中診・外来のEXP・Jのジョイント金物に変形し、一部で剥がれた。手術室では壁パネル多数のひび割れが発生した。また、壁等ボード類の爆裂が数カ所で発生し、便所等のタイルにもひび割れが発生、外壁タイル面のひび割れ、及び一部で剥落した。

外来棟エントランスの外部進入路舗石の沈下浮き上がり、及びそれに伴う玄関自動扉下部レールの破損の被害をうけた。

- ③ 臨床研究棟 S R C造6-1 6,894㎡  
平成6年

構造耐力に影響する躯体の被害は無いが両妻面の外壁に顕著なひび割れ、それに伴う仕上げタイル等の剥落があるほか、内部にも各所に多数のひび割れが発生したが総じて被害は少ない。

- ④ その他の建物

高エネルギー診療棟 R C造2 1,266㎡  
昭和63・平成2年

M R I検査室のシールドをカバーする内装材が爆裂した。

特別高圧受変電所 R C造2 955㎡  
昭和48・58年

各所壁面に大小のひび割れが発生した。

- (2) 基礎学舎地区

- ① 基礎校舎北棟 S R C造10-1 9,986㎡  
昭和54年

——躯体関係——

柱、梁、床版等には、たいした被害が認められないが、南東部、南棟側への壁（耐力壁を含む）に大きな亀裂が発生、破壊した部分もある。

その他の外壁を含む雑壁にも多数の亀裂、びび割れが発生した。

——内装、その他雑——

躯体の損傷に伴う仕上げ材の損傷、建具の損壊等被害の程度は大きい。

また南棟とのEXP・Jの各階ジョイント金物の爆裂に伴う内装仕上げ材の破損、屋根防水ジョ

イント部の離脱等の被害をうけた。

——建物外部——

建物周囲の各所で地盤が沈下し、舗装路面、舗石に被害をうけた。

- ② その他の建物

基礎校舎南棟 R C造5-1 6,319㎡  
昭和51・52年

内装タイル等の剥落が各所に発生した。

共同研究館 R C造4 3,536㎡ 昭和43年  
窓ガラスの破損がめだつた。

工作物等

共同研究館南側の囲障（煉瓦造H=2m）が西側約50mにわたり倒壊した。

## 第2章

# 設 備

### 1. 設備関係の被災状況

#### (1) 病院地区

##### ① 第一病棟

- ・屋上、高架水槽架台移動に伴いパネル板、接続配管部破損
- ・エアコン室外器転倒
- ・病室ファンコイルユニット破損
- ・純生空気マニホールド連結管破損
- ・各階、炊事場給湯器転倒接続配管破損
- ・各所、洗面器等脱落破損
- ・10階詰所外壁破損により気送管変形破損
- ・自家発電機冷却水配管破損
- ・各所、給水配管破損
- ・各所、排水配管破損
- ・各所、汚水配管破損
- ・各所、冷温水配管破損
- ・各所、蒸気配管破損
- ・各所、医療ガス配管破損
- ・各所、都市ガス配管損傷

##### ② 中央診療棟

- ・貯湯槽補給水配管破損
- ・受水槽引き込み給水主管破損

##### ③ 外来診療棟

- ・電算機用空調機冷媒配管損傷
- ・薬剤部無菌室機能破壊
- ・エスカレーター主要機器破損

##### ④ 看護婦宿舎

- ・給水配管破損
- ・温水配管破損
- ・昇降機主要機器破損

#### (2) 基礎学舎地区

##### ① 基礎学舎北棟

- ・屋上、空調用冷却塔転倒配管類破損

- ・屋上、機器類の基礎、架台破損
- ・屋上、ドラフトチャンバー排気ファン破損
- ・R I貯留槽亀裂多数漏水
- ・酸素用マニホールド連結管及び警報機盤破損
- ・各所、実験流し等脱落破損
- ・ガス給湯器転倒破損
- ・各所、給水配管破損
- ・各所、排水配管破損
- ・各所、汚水配管破損
- ・各所、給湯配管破損
- ・機械室、蒸気配管破損
- ・外部、都市ガス配管損傷

##### ② 基礎学舎南棟

- ・ガスボイラー破損
- ・実験流し等脱落破損
- ・各所、給水配管破損
- ・各所、排水配管破損
- ・2階、冷温水配管破損

##### ③ 共同研究館

- ・屋上、高架水槽架台移動及び接続配管部破損
- ・エアコン室外器転倒
- ・排水用会所破損
- ・温水ボイラー補給水配管破損
- ・各所、給水配管破損
- ・昇降機主要機器破損

## 第3章

# ライフライン

### 1. 電気関係

1月17日、5時46分地震発生と共に停電し、本院の自家発電機により送電した。

8時40分に関西電力より送電されたが、余震が激しいため、関西電力の変電設備等の状況について、情報収集及び本院の電気設備関係の異常の有無について調査、その間自家発電機による送電を継続した。

医学部基礎関係については、変電設備に異常が認められないので、8時50分頃停電復帰作業を実施した。

10時45分、附属病院及び関西電力の電気設備に異常が認められないので、停電復帰作業を実施した。

(医学部・附属病院・復電作業完了)

### 2. 都市ガス関係

地震発生とともに、供給が停止された。

大阪ガスの復旧の見通しとして約1.5ヵ月が必要であった。

2月11日供給場所……外来診療棟 臨床研究棟 中央診療棟 看護婦宿舎 高エネルギー診療棟 新臨床研究棟 福利課外施設

第一病棟については、ガス漏れ箇所が相当数あるため、厨房関係のみ別途配管工事を施工し早急に復旧する事とした。

14日供給場所……基礎学舎南棟 共同研究館

16日供給場所……図書館 第一病棟全館（一部7階西詰所関係復旧作業中）

17日供給場所……第一病棟7階西詰所関係

18日第一病棟で少量のガス漏れが確認され、応急処置を実施し復旧した。しかし、第一病棟への送り主管での漏れ箇所が20数ヵ所有るため、早期に主管の取り替え工事を実施する予定である。

21日供給場所……基礎学舎北棟

(医学部・附属病院・仮復旧完了)

### 3. 水道関係

地震発生と共に神戸市からの送水が停止された。

附属病院の対応として、受水槽には約500トンの上水があり、被害を受けた第一病棟の高架水槽及び被害を受けていない外来診療棟の高架水槽への揚水を停止し、被害を受けていない中央診療棟の高架水槽のみ揚水を行った。

1月17日午後8時頃神戸市に給水車派遣依頼、4トン車1台派遣され。神戸市と協議の結果1月18日早朝より、病院構内に常時給水車1台派遣する事で了承。

1月22日神戸市より病院に送水が開始されたが、圧力が非常に低く全館への供給はむずかしいものと思われた。

1月23日供給場所……中央診療棟全館 第一病棟1階給食関係 高エネルギー診療棟 看護婦宿舎

24日供給場所……外来診療棟関係（臨床は除く）

第一病棟各階便所関係及び看護婦詰所関係

医学部の解剖用の水を確保するため、共同研究館受水槽の残水（60トン）を使用するため、ホームポンプを設置し仮設配管にて剖検室に水栓を取付け給水確保をした。

25日供給場所 臨床研究棟（外来棟4～6階） 図書館 第一病棟各階便所手洗・洗面所・共同炊事場 第一病棟各階特別病室便所・洗面・炊事関係 福利課外施設

26日供給場所 第一病棟各階病室手洗関係（一部排水管ダメ）

2月1日供給場所 神戸市に依頼・共同研究館受水槽に39トンの給水を行った。

2月8日供給場所……第一病棟各階病室手洗関係、排水管復旧作業完。

2月4日午前0時20分頃、新臨床研究棟・基盤学舎関係の受水槽に送水が開始されたが、水圧は非常に低く、正常時の約40%程度であった。

病院関係の送水圧力は徐々に回復しているため、通常の給水が可能となった。

2月6日供給場所……新臨床研究棟送水完了、基礎学舎関係復旧作業中

7日供給場所……基礎学舎北棟・基礎学舎南棟（共同研究館関係復旧作業中）

3日供給場所……共同研究館（基礎学舎関係の送水圧力回復）

尚、第一病棟・看護婦宿舎等で若干の漏水箇所があるが、後日復旧作業を実施したい。

（医学部・附属病院・仮復旧完了）

#### 4. 蒸気関係

1月23日送気場所 第一病棟1階給食関係

24日送気場所……中央診療棟5階中央材料部 中央診療棟地階洗濯場

27日送気場所……薬剤部・中央検査部・中央手術部

28日送気場所 看護婦宿舎浴室関係

2月16日送気場所 基礎学舎関係

（医学部・附属病院・復旧完了）

#### 5. 給湯関係

1月25日供給場所……中央診療棟・外来診療棟関係の供給テスト完了

27日供給場所……第一病棟1階給食関係・中央診療棟・外来診療棟

28日供給場所……第一病棟

（附属病院・復旧完了）

冷暖房関係・外来診療棟、中央診療棟は当初より異常は認められない。（1月17日より供給）

1月26日供給場所 第一病院棟配管関係破損箇所の修繕。

27日～31日

2月1日～6日

7日供給場所……第一病棟配管関係破損箇所修繕完了により14時30分頃より17時迄冷暖房運転を開始した。

8日供給場所……今週は試験的に8時より17時迄暖房運転を行い、配管系統等に異常が認められない場合は、13日より正常運転を実施。

13日供給場所……第一病院8時より21時迄正常運転を実施した。

（設備に支障の無いかぎり上記正常運転とする）

16日供給場所……基礎学舎関係 看護婦宿舎

尚、動物実験施設関係の冷房施設が損傷しており、

復旧は5月初旬になる予定であった。

（医学部・附属病院・仮復旧完了）

以上の通り復旧は完了したが、特に配管系統で種々問題がある箇所に付いては、今後、早期に本格作業により支障の無きよう取り計らいたい。

第一病棟被害状況



第一病棟北側面外壁の亀裂



第一病棟1階パイプシャフト前の壁損壊



第一病棟正面出入口横の壁の損壊



第一病棟2階から臨床講義室出入口の非常扉損壊



第一病棟 1階調理場内壁の亀裂、剥落



第一病棟 1階調理場南側トイレ壁等の損壊



第一病棟 1階調理場南側トイレ壁等の損壊



第一病棟詰所内壁剥落



第一病棟10階詰所南側壁の亀裂、損壊



第一病棟病室内壁亀裂



特高受電所監視盤



第一病棟病室内壁亀裂



第一病棟キチネットの給湯器の倒壊（各階同様）

エキスパンション被害状況  
(中央診療棟と第一病棟)



中央診療棟と第一病棟のエキスパンション  
付近第一病棟西側壁の損壊



中央診療棟と第一病棟のエキスパンション部分の損壊



中央診療棟と第一病棟のエキスパンション部分の損壊

臨床研究棟被害状況



臨床研究棟タイルの亀裂



管理課事務室

基礎校舎被害状況



医学部北棟と南棟の渡廊下壁剥落



臨床研究室



基礎研究室



医学部南棟南側民家との境界壁倒壊



基礎研究室



医学部基礎校舎冷却塔損壊



医学部基礎校舎冷却塔損壊

## 第4章

# 教 職 員

人的被害としては、別表の如くである。不幸にも亡くなられた方は、第三内科研修医中條聖子先生であった。御冥福を心よりお祈り申し上げます。

区 分	教 官	事務系職員	看 護 婦	技師・薬剤師 ・理学療法士	医員・研修医	合 計
本 人	死 亡				1	1
	負 傷	1		3	1	5
計	1		3	1	1	6
家 族	死 亡	1				1
	負 傷	1	1	1		3
計	2	1	1			4
全 焼	1		4			5
半 焼						
全 壊	20	21	25	5	13	84
半 壊	28	23	44	12	16	123
計	49	44	73	17	29	212

## 第Ⅶ編

# 救援物資とボランティアの受け入れ

## 第1章

## 救 援 物 資

神戸大学医学部がいただいた救援物資で、把握できているものは次表の如くであるが、混乱した状況の中でのことであったため、漏れているものも多少あると思われる。

震災直後の混乱した状況においては、医薬品あるいは医療材料等で何が不足しているのか、どこへ支援要請をすればいいのか、それを取りまとめることもむずかしい状況であった。

そのような状況下において、震災直後においては医師あるいは看護部より、他大学あるいは関連病院へ直接連絡し、支援の要請が行われた。

電気は、当日の10時45分には復旧したものの、水、ガスの使用できない状況下において、患者あるいはスタッフの食糧確保をどうするかが重要な問題であった。入院患者、スタッフの食事については、給食用の米を用い看護部が炊き出しを行うとともに、保存食等で急場をしのいだ。

17日夕方には、救援給水車が到着し、飲料水の確保も可能となった。18日より、近隣の大学から、おにぎり、缶詰、パン、飲料水等が救援物資として届けられるようになった。

更に、文部省より近隣の大学に対し、神戸大学他への支援要請があり、食料品、飲料水、医療材料から日用品まで、多数の救援物資が数多くの大学から、交通事情が悪いにも拘らず届けられた。

また暖房が停止したことによる採暖対策も深刻な問題であり、入院患者には救援物資の毛布、使い捨てカイロを配布し急場をしのいだ。

断水により洗濯が不可能となり、患者にとっては下着類の支援は有為であり、また救援物資の搬入等、作業後の手指の清拭用のウェットティッシュ、避難所等への医師の回診、事務連絡用等のために支援いただいた自転車、そしてインスタント食品等の調理に電気ポット、カセットコンロ等は非常にありがたかった。

受領月日	送り主	物資	備考
7. 1. 18	(株)新興堂	卵、米	
〃	宍粟郡民病院	おにぎり	
〃	森岡屋	味付け海苔	
〃	大阪大学病院	患者用食料（おむすび）、他	
7. 1. 19	岡山大学病院	患者用食料（おむすび）、医療材料、他	
〃	災害対策本部	トイレトーパー	
〃	兵庫教育大学	患者用食料	
〃	香川大学	患者用食料（うどん）、職員用食料	
〃	香川医科大学	患者用食料（食パン）、職員用食料	
〃	広島大学病院	患者用食料（缶詰）、ポテトチップス、他	
〃	片岡商店	氷柱	
〃	名古屋大学病院	患者用食料（カンパン）、消耗品、医療材料	
〃	奈良先端科学技術大学院大学	日用品	
〃	京都大学病院	患者用食料（弁当）、飲料水、他	
〃	岐阜大学病院	衛生材料、検査用試薬、他	
〃	宍粟郡民病院	インスタント食品、お菓子、他	
7. 1. 20	幸福の科学	飲料水	
〃	宍粟郡民病院	日用品	
〃	岐阜大学病院	患者用食料（缶詰）、検査用試薬、他	
〃	りんでん幼稚園	おにぎり、日用品	
〃	兵庫教育大学	患者用食料（おむすび）	
〃	本学農学部附属農場	雑用水	動物実験施設用
〃	鳥取大学病院	飲料水、食パン	
〃	看護婦の父	食料品、雑用品	

受領月日	送り主	物資	備考
7. 1. 20	通産省災害対策本部	日用品	
〃	藤崎郁夫	食料品	
〃	多胡病院	ガーゼ	
〃	遠藤病院	ガーゼ	
〃	阿保病院	ガーゼ	
〃	石川病院	ガーゼ	
〃	アルケア(株)	医療材料、人工肛門、他	
〃	兵庫脳研センター	医療材料、日用品	
〃	三重大学病院	食料品	
〃	兵庫県立看護大学	食料品	
〃	岐阜大学病院	患者用食料、カイロ、他	
〃	奈良市(対策本部経由)	パン、缶詰、飲料水、他	
〃	千田パン	食パン	
〃	慈恵団	卵、蜜柑、オリゴジュース	
7. 1. 21	奥野克哉	ゆで卵	入院患者の家族
〃	宍粟郡民病院	粉ミルク	
〃	三重大学病院	患者用食料(インスタント食品)	
7. 1. 21	荒木加寿美	紙パンツ、生理用品、他	医学部学生
〃	木下晴行	菓子類、菓子パン	患者家族
〃	第二内科(本院)	弁当	
〃	中部近畿ブロック常置委員会	食料品、飲料水	(委員長)名古屋大学看護部長
〃	兵庫脳研センター	下着類、タオル、他	
〃	看護婦中部地区ブロック	食料品、布団、毛布、他	三重・岐阜・鳥取大学
〃	鳥取大学病院	患者用食料(食パン)、飲料水	

受領月日	送り主	物送資	備考
7. 1. 21	港湾援護対策	サラダ革命、りんご、他	
〃	コープ神戸垂水店	食料品、飲料水	
〃	第一外科同門会	ポリタンク、タオル、医薬品、他	
〃	慈恵団	うどん入り豚汁	
〃	タツノアキフミ	飲料水	明石市の一般市民
7. 1. 22	エホバの証人 のものみの 塔聖書冊子協会	食料品、カイロ、毛布、他	
〃	宮野医療器(株)	整形用手術セット	
〃	神戸市対策本部	食料品、飲料水、コンロ、他	
〃	第二内科OB	食料品、カイロ、他	
〃	ハーン・ボイセン	テレホンカード	
〃	神戸市対策本部	患者用食料	
〃	小田某	食料品	中手職員の弟
〃	八鹿病院	衣類、下着、毛布、他	
〃	コープ神戸	蜜柑、牛乳、バナナ、飲料水、他	
7. 1. 23	神戸市対策本部	トイレットペーパー、蜜柑	
〃	中央区役所	弁当、飲料水、果物、他	
〃	宍粟郡民病院	コーヒー、ブライト、小児用ミルク、他	
〃	兵庫教育大学	職員用食料 (23日夕食、24日朝食)	
〃	中部近畿ブロック常置委員	蒸留水、下着、寝間着、他	
〃	大阪大学病院	診察衣、予防衣、パンスト	
〃	兵庫県立看護大学	風邪薬、コーヒー、お茶、他	
〃	岡山大学病院	職員用食料 (25日朝食)	
〃	避難している地域住民	蜜柑	
7. 1. 24	岩崎病院	トイレットペーパー、ティッシュ、他	

受領月日	送り主	物資	備考
7. 1. 24	宍粟郡民病院	おむつ、タオル、ウエットティッシュ、他	
〃	京都大学病院	毛布	
〃	香川大学・香川医科大学、 高松高専・託問電波高専	カイロ、紙おしぼり	4校合同で
〃	岐阜大学病院	医薬品、衛生材料、衣類	
〃	大阪大学学院	ポット、下着、寝間着、毛布、他	
〃	中部近畿ブロック（名古屋 大学病院）	飲料水、寝間着	
〃	岡山大学病院	患者用食料	
〃	川田フミ	病衣	8東の入院患者
〃	兵庫教育大学	職員用食料（24日昼食・夕食）	
〃	イセト紙工(株)	菓子箱	
7. 1. 25	大阪大学病院	カーディガン、毛布、布団、キャンパスベットの	
〃	猪名川動物霊園	お茶	
〃	島根医科大学	患者用食料（パン）、職員用食料（26日朝食・昼食）	
〃	信州大学病院	医薬品	
〃	神戸市災害対策本部	飲料水、ウエットティッシュ、他	
〃	鳥取大学病院	職員用食料（25日昼食）	
〃	広島大学病院	職員用食料（25日夕食）	
〃	本学農学部附属農場	患者用食料（おにぎり）、他	
7. 1. 26	兵庫県神道青年会	ウエットティッシュ、他	
〃	名古屋大学病院	食料品、日用品、医療材料	
〃	高砂市民病院	飲料水、お茶	
〃	(株)日経サービス	飲料水	
〃	中央保健所	家庭用常備薬	
〃	京都大学病院	職員用食料（26日夕食）	

受領月日	送り主	物資	備考
7. 1. 26	滋賀医科大学	職員用食料 (27日朝食・昼食)	
7. 1. 27	広島大学病院	職員用食料 (27日夕食)	
〃	神戸市消防学校	懐中電灯、電池	
〃	照林社	下着、シャンプー、他	
〃	東京女子医大第二病院	ウエットティッシュ、他	
〃	鳥取大学病院	職員用食料 (28日朝食)	
7. 1. 28	鳥取大学病院	職員用食料 (28日昼食)	
〃	東京農工大学	野菜	東京商船大学の 汐路丸で運搬
〃	千葉大学病院	医薬品	〃
〃	東京医科歯科大学	食料品、哺乳ビン、ミルク、自転車、患者用食料 (レトルト食品)、他	〃
〃	東京大学病院	コンロ、ポット、下着類、毛布、他	〃
〃	三重大学病院	職員用食料 (28日夕食)、他	
〃	岡山大学病院	職員用食料 (29日朝食)	
7. 1. 29	名古屋大学病院	職員用食料 (29日夕食)、他	
〃	滋賀医科大学	職員用食料 (29日昼食)	
7. 1. 30	猪名川動物霊園	お茶	
〃	京都大学病院	職員用食料 (30日朝食・昼食)	
〃	鳥根医科大学	職員用食料 (30日夕食)	
〃	田中勝幸	男女用下着	元患者
7. 1. 31	本学農学部附属農場	雑用水	動物実験施設用
〃	宮崎大学	栄養ドリンク、他	兵庫教育大学経由
〃	大阪大学病院	カセットガスボンベ、乾電池	
7. 2. 2	神戸市北区の花屋のボランティア	洋ラン、鉢植えの花	
〃	愛媛大学病院	絆創膏、蜜柑、蒲鉾、他	

受領月日	送り主	物資	備考
7. 2. 2	サントリー(株)東神戸 DC	罐入りのジュース、オレンジ、緑茶、他	慈恵団経由
々	神戸市災害対策本部	バナナ	
7. 2. 3	宮崎大学	漬物（大根）	
々	波多野マサ子	粉ミルク、オムツ、ウエットティッシュ	
7. 2. 5	兵庫県対策本部	毛布、掛布団	
7. 2. 8	金沢大学病院	バスタオル、飲料水、紙オムツ、他	

〈おわびとおことわり〉

混乱期でもあり、折角救援物資をいただきながら、記載漏れの個人や団体の方々が多くおられると存じます。

ここに、お詫び申しあげるとともに、ご厚意に深く感謝申し上げます。

# 救 援 物 資



## 第2章

# ボランティアの受け入れ

大学へ応援頂いたボランティアの方々は、別表の如くである。関連諸機関の御協力に感謝致します。尚、ボランティア支援の多かった看護部の詳細については、後述の如くです。また、記載漏れの方々もあるかと存じますが、混乱期のためご容赦下さい。

(平成7. 2. 13現在)

診療科等名	受 入		
	受入者勤務先等	職種員数	期 間
老 年 科	神戸大学	学生(院生) 6	1. 17~1. 27
		学生(学部) 15	1. 23~1. 27
整 形 外 科	兵庫県総合リハビリテーションセンター	医 師 1	毎日1人
精 神 科 神 経 科	九州大学	医 員 2、学 生 1	1. 26~1. 30
	名古屋大学	医 師 1	1. 27~2. 6
	帝京大学	医 師 2	2. 1~2. 4
	青木病院	医 師 2	1. 27~2. 19
	朝倉記念病院	医 師 1	1. 30~2. 3
	都立墨東病院	医 師 1	1. 28~2. 4
救 急 部	神戸大学	学生(院生) 32	1. 17~
薬 剤 部	岡山大学	薬剤師 4	1. 25~1. 27 1. 30~2. 1
	神戸薬科大学	学 生 1	1. 19、1. 20、1. 23
看 護 部	旭川医科大学	看護婦 3	1. 23~1. 28
	浜松医科大学	看護婦 2	1. 23~1. 26
		看護婦 10	2. 2~2. 8
	名古屋大学	看護婦 21	1. 26~2. 1
	広島大学	看護婦 2	1. 24~1. 27
		医 師 2	1. 24~1. 27
	千葉大学	看護婦 1	1. 26~2. 1
	大阪大学	看護婦 2	1. 27~2. 1 2. 15
	岡山大学	看護婦 8	1. 29~2. 22
	金沢大学	看護婦 10	2. 2~2. 8
	兵庫県立看護大学	教官(看護婦) 8	1. 20~1. 22
	大阪市立大学	看護婦 1	1. 24~2. 3
	東京医科歯科大学	看護婦 1	1. 27
	聖路加国際病院	看護婦 1	1. 30~2. 2
	井之頭病院	看護婦 1	1. 30~2. 2
	神戸医療短大	教官(看護婦) 8	1. 27~1. 30
		学 生 9	1. 26~1. 30
神戸大学	学 生 79	1. 24~1. 26 1. 29~	
三重大学	看護婦 10	2. 9~2. 15	
その他	市民等	1. 18~1. 22	
事 務 部	事務局等	事務官 22	1. 18~1. 30
栄 養 管 理 室	県立姫路短期大学	学 生 2	2. 13~2. 24

## 1. ボランティア支援状況

### (1) ボランティア支援導入の動機や目的

#### ① 地震発生当時から約1週間の初期；

震災によって増大した看護の業務量及び交通寸断と看護職員の被災によるマンパワー不足への対応。

#### ② 地震発生日から2週目以降の中期以降；

初期における不眠不休の長時間勤務による看護職員の疲労の回復と地震発生時の不安・恐怖体験によるストレスの緩和のための休養、被災した職員の家の片づけ等のために休暇を与えることによるマンパワー不足への対応。

### (2) ボランティアの支援を受け入れるプロセス

#### ① ボランティアとしての支援協力への申し出。

#### ② 受け入れの必要性と可能性を検討し、病院長、事務部長の許可を得る。国立大学病院の場合には、文部省の強力なバックアップあり。

・初期には、現場の混乱を最小限にするために、資格の必要でない業務へのボランティアは知人に限定し、資格の必要な業務には、本院勤務経験者に限定した。

・食料が安定して確保でき、水道の復旧により食事、トイレ、風呂の使用が可能になった中期以降には、看護ケアに関する簡単なオリエンテーションのみで即戦力が発揮できる勤務経験5年以上の看護婦に限定した。

### (3) 受け入れの日時、人数、往復の交通機関などについて先方の実情を考慮して交渉。それを国立大学の場合は事務部長が担当し、その他は看護部長が行った。

### (4) 到着時と出発時の世話や対応は看護部と事務部で協力した。

### (5) 配置先は看護部長が決め、その後の業務の分担と説明は看護部長及び副看護部長で分担した。現場でのオリエンテーションは婦長及びリーダー勤務者が行った。

## 第Ⅷ編

# 社会的活動

(医学部からのボランティア活動など)

# 社会的活動 (医学部からのボランティア活動など)

震災直後は、医学部としては、被災地の中央に位置したことから、附属病院へ殺到する負傷者の対応に追われた。しかし、神戸市ならびに兵庫県内に設けられた被災者への援助活動も当然のことながら行った。その内容については、まず兵庫県、神戸市ならびにその他の行政機

関との医療協力、関連病院との協力体制、神戸大学医学部職員等による院外医療活動ボランティアの各診療科による専門的な医療ボランティア活動、その他の社会的奉仕からなっている。それぞれの活動を一部資料とともに記録した。

## 第1章

### 各関係省庁との折衝

神大医総第1363号

平成7年2月7日

兵庫県知事 貝原俊民 殿

神戸大学医学部長

山鳥 崇

神戸大学医学部附属病院長

望月 真人

#### 阪神大震災に伴う医療協力について

有史未曾有の阪神大震災に際しまして、知事及び県職員一丸となつての対応に心よりの敬意を表します。神戸大学医学部及び附属病院も多数の学生、医師の死亡や被災等もありましたが、被災以来今日迄最大限の努力を致して参りました。地震直後より多数の救急患者が来院し、1月17日には420名、1週目までに1,227名の救急患者を受け入れました。その間、ライフラインの途絶、食料不足、医療スタッフや職員の不足など物質面や人手の問題と戦いながら1月25日まで24時間無休体制で診療して来ました。1月26日より外来を完全オープンにし従来の外来体制にもどしつつ1日も早い復興を目指して頑張っております。

さて、兵庫県南部地震に被災した当地域の医療・保健対策事業は貴職らの努力の下に、現在やや急性期の対応

を脱した状態となり、今やインフルエンザ等の感染症予防のみならず急性疾患並びに慢性疾患対策などにおいて広範、かつ時機を失さない医療及び保健活動の必要な第二段階に入ったと思われまふ。さらに、数十万人の被災者と数兆円の被害を被つた兵庫県では、この災害の後遺症から県民の健康を守るための中期から長期にかけての21世紀をみすえた保健・医療・福祉政策が必要とも思われまふ。

当医学部附属病院は、神戸市のほぼ中央に位置し、比較的機能の温存された病院として、また、兵庫県の保健医療の地域特性を把握し得、さらに戦災を含む過去の幾多の災害経験の集積を生かし得る機関として、この際応分の協力出来るものと確信しております。さしあつては、第一に、今後、次第に低下が予想される当面の医療・保健活動への支援及び一日も早い正常状態への移行に向けて、当学部が神戸大学関係病院に声をかけ、総力をあげて協力致したいと考えております。第二に中期から長期にかけての兵庫県の医療・保健活動の復興に向けてのプランニング等についても地域に密着した形で出来る限りの協力をしたいと思います。

幸い当医学部附属病院は、昨年8月より厚生省により特定機能病院として位置づけられております。このような立場から、地域の行政、医師会等とも役割分担を明確

にしながら兵庫県被災地域の再建復興のために協力したいと思います。

以上震災からの復興に対する当医学部の所存を披瀝致します。最後に貴職の益々のご活躍と兵庫県のこれまで以上の発展を祈念致します。

なお、同様の申し出を神戸市長に対しても行っていることを申し添えます。

医療チーム（関係病院）の支援について（打合－１）

平成7年2月10日（金）12：40～13：10

兵庫県南部地震厚生省現地対策本部（国立神戸病院内）

厚生省健康政策局指導課医療関連サービス室

村上茂樹室長補佐

医療チーム（関係病院）の支援について（打合－２）

平成7年2月20日（月）13：30～13：40

神戸市医師会館 皆木医師会長

平成7年2月20日（月）14：15～15：05（打合－３）

神戸市衛生局 宮本局長、同 木村参与

平成7年2月20日（月）15：33～15：50（打合－４）

兵庫県保健環境部 後藤次長

## 第2章

# 関連病院の状況

震災時における神戸大学関係病院診療現況調査（平成7年2月21日現在）

神戸大学医学部附属病院作成

番号	地域別	病院名	被災の有無	救急受付	検査（下欄はその他特記事項）								手術	手術室	手術件	処置		資材納入		備考	
					X線	CT	MRI	シンチグラム	上部消化器	下部消化器	気管支	透析				分娩	医療材	薬品			
	例	神戸大学附属病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	○	○	○	○		
1	東灘区	甲南病院	有	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		
2		六甲アイランド病院	有	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	無	○	○	○	○		
3	灘区	神戸海星病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	○	○	○		
4		国公等共済組合 六甲病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無		○	○	○		
5	中央区	川北病院	有	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×		×	×	○	○		
6		神戸掖済会病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	○	○	○		
7		神戸海岸病院	有	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	本格復旧は3か月後の予定
8		神戸通信病院	軽微	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
9		神戸博愛病院	軽微	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	
10		神戸労災病院	軽微	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
11	兵庫区	神鋼病院	有	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	3月からほぼ全面復旧予定
12		市立中央市民病院	有	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2月26日まで緊急のみで、以後は順次通常体制に復帰
13	兵庫区	小原病院	軽微	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	無	×	×	○	○		
14		鐘紡記念病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	
15		川崎病院	有		○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	人工透析、内視鏡は2月下旬、手術室は3月初旬復旧予定
16	北區	三菱神戸病院	無	×	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○		
17		社会保険神戸中央病院	軽微		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

番号	地域別	病院名	被災の有無	救急受付	検査（下欄はその他特記事項）							手術室	手術	手条	処置		資材納入		備考	
					X線	CT	MRI	シンチグラム	上部消化器	下部消化器	気管支				透析	分娩・産科	医療材料	薬品		
18	北 区	県立光風病院	軽微		○	○														
19		済生会兵庫県病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			
20	長 田 区	公文病院	有	○	○					○		○	○	限定			○	○		
21		兵庫病院	有	× 電話を 受けて 対応	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	消化器 人工心 肺等 手術に 関する 手術	×	×	○	○	
22	須 磨 区	国立神戸病院	軽微	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	可場限 入能な る	×		○	○		
23		県立こども病院	軽微	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	○	○	○		
24		須磨赤十字病院	軽微		○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	救原し と不可 夜急則 て不可	×	○	○	○	
25	垂 水 区	野村海浜病院	軽微	○	○	×	×	○	×			×	×	従来 の手術 のみ	×	×	○	○	3月早々に復 旧見込み	
26		佐野病院	軽微		○	○	×	×	○	○	○	○	○	無	○	○	○	○		
27	西 区	舞子台病院	軽微	○	○				○	○	○	○	○	無			○	○		
28		県立リハビリテーション中央病院	有	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○		
29		西神戸医療センター	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	○	○	○	○	
30	阪 神 間	のじぎく療育センター	有		○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	整形外 科のみ	×	×	○	○	
31		大阪暁明館病院	無	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	無	○ 数名	○	○	○	○	
32		自衛隊阪神病院	無	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	無		○	○	○	保険診療× (自費)
33		高槻病院	軽微	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	無	○	○	○	○	
34	東 播 地 区	千船病院	無	○	○				○	○	○	○	○	無	○	○	○	○		
35		県立塚口病院	有	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	無		○	○	○	2月6日から 復旧
36		中津病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	緊急に ついで は連絡 された い	○	○	○	○	
37		富士原病院	無	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	無	○	×	○	○	
38	東 播 地 区	淀川キリスト病院	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	胸部外 科は不 可	○	○	○	○	
39		県立成人病センター	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	×	○	○	
40		国立明石病院	軽微	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

番号	地域別	病院名	被災の有無	救急受付	検査（下欄はその他特記事項）								手術室	手術	手術件	処置		資材納入		備考
					X線	CT	MRI	シンチグラム	上部消化器	下部消化器	尿管	気管支				透析	分娩・分婭	医療材料	薬品	
41	東播地区	私立二見病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○			
42		明舞中央病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
43		加古川市民病院	軽微	×	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○			
44		国立加古川病院	軽微		○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○ 分娩	○	○			
45		神鋼加古川病院	無	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○			
46		はりま病院	軽微	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○			
47		県立加古川病院	軽微	○ 第3日曜 日と再来 のみ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○		
48		市立高砂市民病院	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
49		市立三木市民病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	○ 急性期 のみ	○	○	○		
50		市立小野市民病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	○	○	○		
51	市立加西病院	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○			
52	中町赤十字病院	軽微	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○ 心大開 不可	×	○	○	○		
53	市立西脇病院	軽微	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	×	○	○			
54	姫路循環器センター	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	×	○	○			
55	広畑製鐵所病院	無	○ 二次 救急	○	○	×	×	○	○	○	○	○	無	×	○	○	○			
56	八家病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○ 一般外 形外科	×	×	○	○			
57	姫路赤十字病院	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 緊急手 術のみ	×	○	○	○			
58	県立高齢者脳機能研究センター	無	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○			
59	江尻病院	無	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	無	○	×	○	○			
60	城陽江尻病院	無		○	○	×	×	○	○	○	○	○	無	○	×	○	○			
61	公立御津病院	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無	×	×	○	○			
62	播磨病院	無	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○ 分娩	○	○	○			
63	赤穂市民病院	無	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

番号	地域別	病院名	被災の有無	救急受付	検査（下欄はその他特記事項）							手術室	手術室	手術件	処置		資材納入		備考
					X線	CT	MRI	シンチグラム	上部消化器	下部消化器	気管支				透析	分娩・産科	医療材料	薬品	
64	西播地区	神崎総合病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
					MRIは4月より可							○	○		○	○	○	○	
65		佐用共立病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○		
66		公立宍粟郡民病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○		
67	丹波・但馬地区	公立和田山病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	無	×	×	○	○		
68		公立豊岡病院	無	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○		
69		日高病院	無	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	無	○	○	○		
70		三田市民病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○		
71	地区	国立療養所兵庫中央病院	軽微	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	
72		国立篠山病院	無	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○		
73		県立柏原病院	無	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
74	淡路	県立淡路病院	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

### 第3章

## 神戸大学医学部震災シンポジウムプログラム

日 時 平成7年9月2日(土)

午前9時30分～午後7時00分

(ポートアイランド)

開会の辞 神戸大学医学部長 山 鳥 崇

事例発表

区分	テーマ・座長	演 題	発 表 者
第1部	震災による死亡 法医学 教授 龍野嘉紹	1. 兵庫県南部地震における死体検案活動並びに災害時救急医療及び死体検案体制について 2. 灘高校における死亡診断業務について -200枚の診断書- 3. 震災時の病理解剖の役割と控減症候群	法 医 学 助 教 授 上 野 晶 弘 外 科 学 第 一 大 学 院 生 川 崎 健 太 郎 病 理 学 第 二 教 授 前 田 盛
第2部	震災後の環境 衛生学 教授 佐藤茂秋	4. 「阪神淡路大震災後の神戸大学医学部学生の生活及び健康についての調査」結果報告 5. 震災後の解体現場における粉塵濃度 6. 兵庫県南部地震後の神戸市内におけるネズミの動態について 7. 震災の研究におけるインターネット・コミュニケーション	公 衆 衛 生 学 大 学 院 生 高 谷 育 男 公 衆 衛 生 学 講 師 山 本 良 二 (兵医大) 理 事 田 中 正 郎 (兵庫県ベストコントロール協会) 看 護 学 教 授 久 間 圭 子
第3部	医療ボランティア 老年医学 教授 千葉勉	8. 神戸大学医学部附属病院医療ボランティアの援護活動をふりかえって 9. 糖尿病等の慢性疾患にたいする救援活動 10. 糖尿病等の慢性疾患にたいする救援活動-移動検査室のデザイン- 11. 阪神・淡路大震災後の避難所に対する巡回リハビリテーション 12. 兵庫県南部地震における学生のボランティア活動について	外 科 学 第 一 講 師 具 英 成 看 護 学 教 授 谷 口 洋 検 査 技 術 科 学 教 授 亀 野 靖 郎 理 学 療 法 部 助 手 佐 浦 隆 一 医 学 部 学 生 文 野 誠 久
第4部	震災時の救急医療 外科学第一 教授 斎藤洋一	13. 震災発生直後の看護活動 14. 大震災時における大学病院と救急部のあり方は? 15. 震災時の医薬品動向と薬剤部の対応 16. 震災と放射線診療 17. 震災時における臨床検査の実情と問題点 18. 阪神・淡路大震災による性減症候群の経験 19. 兵庫県南部地震における災害医療の原点と問題点	看 護 部 副 部 長 箕 輪 敬 子 救 急 部 助 手 山 本 伸 一 薬 品 管 理 室 長 中 山 正 正 医 療 情 報 部 助 教 授 佐 古 井 彦 中 央 検 査 部 技 師 長 岡 田 昌 義 泌 尿 器 科 第 二 教 授 岡 田 昌 義 外 科 学 第 二 教 授 岡 田 昌 義
第5部	震災と疾患 外科学第二 教授 岡田昌義	20. 阪神・淡路大震災による脳疾患の発生状況と対応について 21. 震災と眼疾患 22. 阪神大震災後にみられた巨大陰性T波を伴う acute coronary event 23. 阪神大震災から学ぶ糖尿病における生活環境の重要性 24. 災害時の周産期医療 25. 阪神大震災がアトピー性皮膚炎患者の皮膚症状に与えた影響	脳 神 経 外 科 学 助 教 授 朝 井 上 雅 博 眼 科 学 助 教 授 朝 井 上 雅 博 内 科 学 第 一 助 教 授 朝 井 上 雅 博 内 科 学 第 二 助 教 授 朝 井 上 雅 博 産 科 婦 人 科 講 師 朝 井 上 雅 博 皮 膚 科 学 医 員 児 玉 昌 子
第6部	震災とストレス 小児科学 教授 中村肇	26. 在宅障害児家族の視点から見た阪神・淡路大震災 27. 震災が慢性疾患児の健康生活上に及ぼした影響と家族の対処 28. 阪神大震災が長期降圧薬服用中の高血圧患者に与えた影響 29. 震災におけるストレス潰瘍の発生について -阪神大震災後の上部消化管疾患推移の検討- 30. 阪神淡路大震災の外来患者への影響 31. 大震災とストレス -疫学研究の今後の課題-	小 児 科 学 助 教 授 高 草 田 哲 看 護 学 助 教 授 高 草 田 哲 内 科 学 第 一 助 教 授 高 草 田 哲 内 科 学 第 二 助 教 授 高 草 田 哲 看 護 学 教 授 石 川 雄 一 疫 学 調 査 教 授 石 川 雄 一

パネルディスカッション これからの災害・救急医学—大震災の経験から—

座 長：山鳥 崇 神戸大学医学部長、石川 齊 神戸大学医学部保健学科長

パネリスト：加古康明 兵庫県医師会副会長、川村 隆 兵庫県保健環境部長

坪井修平 神戸市衛生局長、松尾武文 兵庫県立淡路病院長

望月真人 神戸大学医学部附属病院長、住野公昭 神戸大学医学部教授(公衆衛生学)

中井久夫 神戸大学医学部教授(精神神経科学)、新道幸恵 神戸大学医学部教授(看護学)

石井 昇 神戸大学医学部附属病院救急部長

指定発言者：上羽康之 鐘紡記念病院長(神戸大学名誉教授)、佐藤茂秋 神戸大学医学部教授(衛生学)

齋藤洋一 神戸大学医学部教授(外科学第一)、佐藤英一 神戸大学医学部教授(検査技術科学)

開会の辞 神戸大学医学部附属病院長 望月 眞 人